

研修報告書 山根兼三郎

リファレンス国際ビル(東京都)

2024/1/16

【地方創生 SDGs 特別講座 人口増加策、DX、GX、公共交通】講師 山中俊之

- ①移民が集まる所は成長する、でないとダイバーシティやイノベーションが起きない。日本は高齢化や人口減少に悩む国ですが、移民を受け入れることで、地方に活力や多様性をもたらすことができるという考え方。
- ②地方創生には、他の地域との差別化が必要。地方の魅力や特色を発掘し、アピールすることで、観光客や移住者を呼び込むことができますということです。差別化のためには、地域の歴史や文化、自然や産業などを活かすことが大切。「尖る」
- ③「英語力が地方再生の肝」。地方創生には、国際的な視野やコミュニケーション能力が必要。
- ④地方創生には、社会的包摂や地域コミュニティの強化が必要。inclusive playground は、人と人とのつながりや、健康や幸福の向上に貢献するということです。inclusive playground を作るためには、ユニバーサルデザインやアクセシビリティなどに配慮することや、地域住民や関係者の参加や協力を得ることが必要だと思いました。

2024/1/17

【高齢化の進展・人口減少に対応した交通まちづくり】井原雄人

現状の分析や将来の展望、具体的な事例などを聞くことができました。

- ①2045 年までは高齢化と人口減少が続く。人口構造の変化に対応した交通まちづくりが必要。
- ②首都圏では、ニュータウンと呼ばれる大規模な住宅団地が多く建設されましたが、その住民も一斉に高齢化し、まちとしての活力の低下や施設の老朽化などの課題が生じています。オールドニュータウン化に対処するためには、住民の参加や協働、多世代や多様な人の交流、地域資源の活用などが必要。

高齢化と人口減少が続く社会において、交通まちづくりは、地域の魅力や特性を活かしながら、市民ワークショップなど通じて地域の活力や連携を高めるための重要な手段だということを学びました。